

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)			
		7/12~7/19	7/19~7/26	7/26~8/2	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	0.023	0.032	不検出
		セシウム137	0.140	0.230	0.097
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.072	0.100	0.055
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.069	0.070	不検出
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	0.024	0.022
		セシウム137	0.150	0.170	0.12
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	0.032	不検出	不検出
		セシウム137	0.260	0.070	0.018
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.064	0.071	0.015
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.064	0.069	0.021
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.074	0.084	0.058

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)			
		7/12~7/19	7/19~7/26	7/26~8/2	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.059	0.054	0.022
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.038	0.025	不検出

検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

平成29年7月12日~8月2日の間の南相馬市の大気浮遊じん中の放射性セシウム137の濃度は、平均0.078mBq/m³と引き続き低い値で推移しています。この放射能濃度は、福島原発事故前の日本各地における観測値の範囲内にあり健康影響を心配することはありません注1。

注1 福島原発事故前の日本各地の大気中におけるセシウム137濃度
<http://www.kankyo-hoshano.go.jp/01/0101flash/01010121.html>